

NEWS

「トヨタスカラシップ」新設

チャイコフスキー国際コンクールの 主幹スポンサーへ

若手クラシック音楽家の登竜門として、過去に諏訪内晶子や上原彩子などの優勝者を輩出している「チャイコフスキー国際コンクール」に、日本のトヨタ自動車(株)がジェネラルスポンサーとして協賛することになった。1958年の創設以来、4年に1度開かれてきた同コンクール。本来なら昨年に第13回が開催されるはずだったが、資金難や主催側の準備不足などにより見送られていた。

今回トヨタ自動車が協賛するのは、前回の約2・5倍に当たる約650万ドル(約7億9300万円)という巨大な総予算のうち3分の1に相

当する額。日本企業が同コンクールを支援するのは、ソ連崩壊後の混乱が続いていた1994年にバイオニアがスポンサーとなって以来である。

6月13日から30日までの18日間、モスクワで開催される同コンクールには、ロシアでの事前審査を通過した30カ国205名が参加する。そのうち日本人参加者は、ピアノ部門6名、ヴァイオリン部門3名、チェロ部門2名、声楽部門3名の計14名。

今回はさらなる発展と国際化を図るべく、「トヨタスカラシップ」が新設された。これは若き演奏家たちに広く門戸を開放し、コンクールへの参

加機会を与えることを目的とするもので、ロシアでの事前審査とは別に、ピアノ、ヴァイオリン部門についてロシア以外の地域(日本、アメリカ、フランス)で選出された出場者に対して、コンクール参加への支援を行う。日本での選考会は、2月9日ぐらしき作陽大学にて行われ、4名が参加し2名が選ばれた。

自動車業界でだけでなく社会貢献でも世界に足場を築きつつあるトヨタ。伝統あるクラシックの活性化支援で、世界の一流企業のリーダーとしての手本を見せる一方、日本から新たな世界的演奏家が羽ばたくことを願ってやまない。



初の「トヨタスカラシップ」に選ばれた、ピアノ部門の谷明弘さん(18歳)とヴァイオリン部門の鈴木舞さん(17歳)。鈴木さんは参加資格における最年少のコンクール出場者。